

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部	
	課名	商工観光課	
	係名	商工振興係	
	記入者		電話(内線) 218

1. 事業の概要			
(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	本場結城紬技術習得奨励金事業
		(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体	市
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質 一般事業費(ソフト事業) 会計区分 一般会計 財源区分 市単独 予算科目 款 7 項 1 目 3 予算書上の 事業名称 (予算書 126 へに掲載)
② 施策コード	35101 (総合計画掲載へに 109 へに)		
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)		
基本施策	3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)		
施策	①伝統工芸の保存・伝承		
施策内容	1結城紬の保存・伝承		
(5) 事業期間	開始 平成 3 年 5 月から 終了 年 月まで (力年)	(8) 事務分類	根拠法令 平成28年度結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金要項

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
①紬製造技術の習得に意欲を有する者 ②技術習得終了後も引き続き専門的に紬製造業に従事する者 ③伝統工芸本場結城紬製造企業の就業を承認した者 ④茨城県本場結城紬織物協同組合が推薦する者 ⑤税策について選納がない者	伝統工芸本場結城紬製造技術の保存伝承、後継者の確保及び紬産地の安定化を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金交付申請を提出させ、交付決定のあった月の翌月から6ヶ月間、2万円を交付する。	本場結城紬の技術製造の保存伝承、後継者の育成及び確保を図るとともに紬産地の安定化を目指し、事業を開始した。 (栃木県小山市は技術継承を目的とし、市の職員として採用している。)
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
本場結城紬の技術継承は、産地として取り組むべき問題であるが、茨城県及び各団体が技術育成事業を実施しているため、調整していかなければならない。	

3. 事業コスト			
行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
	27 年度	28 年度	29 年度 30 年度 31 年度
(1) 事務事業費	事業内容		
	負担金補助及び交付金	240	600
	合計	240	600
財源	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)		
	地方債 (千円)		
	その他特定財源 (千円)		
	一般財源 (千円)	240	600
	合計 (千円)	240	600
	補助・起債制度名		

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	補助金交付対象者	目標値		5	5	5	5
		実績(見込)値	2	5			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	奨励金支給者	目標値		138	143	148	153
		実績(見込)値	133	138	143	148	153
		達成率	86.9 %	90.2 %			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率	%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

茨城県及び各種団体と技術育成事業について調整を行い、対象者の選定を行った。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	伝統工芸等の技術を後世に引継ぐ後継者を育成するとともに、産地として取り組む事業のため必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	民間でも実施できる事業である。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	民間でも実施できる事業である。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	和装業界が全体的に縮小傾向にある。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	広く募集はしているが、対象者要件に達した者に限る。
有効性	成果の向上	A	上がっている	技術者育成として、一定レベルの成果はある。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	後継者育成及び確保の観点において、一定レベルの成果はある。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

伝統工芸産業の軸である本場結城紬の振興を図るため、製造技術の保存伝承並びに後継者を育成していくことが重要であるが、結城紬の製作工程の体験事業を実施することで魅力発信ができ、産地の安定を図るとともに販路拡大及び発展に繋げていく必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

後継者の育成支援は伝統工芸技術の継承、産業振興には欠かせない取り組みであり、地方創生(加速化交付金)事業を活用し、結城紬の後継者育成事業を展開していくとともに、より効果的な事業の在り方も含め、見直しを行いながら継続していく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	本場結城紬の製造技術を継承するため、後継者を育成していくことは重要であることから、より効果的な展開を図り継続していく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。